

宮城県が公表した「政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性について」に係る主要経過

年月日	主要経過	概要
令和元年 12 月	【県】宮城県立がんセンターの今後のあり方に関する報告書	○県立がんセンター(以下「がんC」という。)の目指すべき方向性 ・「がんを総合的に診療できる機能を有する病院」とすること ・高度・先進医療を含むがん医療機能を維持し、宮城県の責任において、がん医療に特色を持たせた病院とすること ・他の医療機関との連携・統合についても検討を行うべきであること ・立地場所については、県民のアクセスや経営の改善を考慮し、検討を行うべきこと など
〃	【県】宮城県立精神医療センターの今後のあり方に関する報告書	○県立精神医療センター(以下「精神医療C」という。)の目指すべき方向性 ・(果たすべき医療機能)①政策的医療の推進、②民間医療機関との役割分担や連携のもとでの専門医療の提供、③地域の精神科医療水準(質)の向上、④災害対応の拠点、など ・「経営」、「建替」 など
令和 2 年 8 月 4 日	【県】「がんを総合的に診療できる機能を有する病院」の実現に向けた検討開始を公表	○病院設置者および宮城県等の協議により、「がんを総合的に診療できる機能を有する病院」の実現に向け、東北労災病院(以下「労災」という。)、仙台赤十字病院(以下「日赤」という。)、がんCの 3 病院の連携等の検討開始 → 以降の協議状況は不明
〃 10 月～	上記公表以降、地域住民や医療関係者等から本市に対し、住民の安全・安心や地域の経済・雇用を守るため、病院の移転等を行わないよう宮城県に対し強く求めることや、検討している内容を地域住民等に速やかに開示するよう宮城県に要請することを求める要望書等が相次いで提出	
〃 11 月 26 日	【市】仙台市長と宮城県知事の会談	○市長から、3 病院は市にとって大変重要なものであり、労災、日赤両病院の地元の住民や市医師会、議会から両病院の現地での存続を求める声や、検討状況が不明なことで市民の懸念が増していることを改めて伝達し、検討状況を積極的に提供し、市民や医療機関の意見を聴きながら検討を進めるべきと強く要請 ○知事から、独立した病院がそれぞれ立場や利益を考えながら協議を進めており、今後どうなるか見通せない状況であるため、方針が出るまでは情報開示等は行えない旨の回答
令和 3 年 9 月 9 日	【県】「政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性について」を公表	○新たに精神医療Cが加わり、日赤とがんCの統合、並びに、労災と精神医療Cの合築により、2 つの新たな拠点病院を整備することについて協議を開始し、令和 4 年度中の基本合意を目指すこと ○令和 2 年 8 月以来の協議の中で、①がん医療、②周産期医療、③救急医療、④災害医療、⑤新興感染症対策、⑥精神医療といった宮城県の政策医療の課題について整理 → この間の検討経過、現在の協議状況は不明
〃 10 月 13 日	【県】地域医療の課題解決の方向性に関する仙台医療圏市町村説明会	○上記の方向性について説明があり、本市からは、さらなる説明を行うことを要請
〃 11 月 15 日	【市】「宮城県が公表した「政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性について」に関する本市の考え」を県に提出	(別添 3 宮城県が公表した「政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性について」に関する本市の考え 参照)
〃 11 月 16 日	【市】「宮城県が公表した「政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性について」に関する本市の考え」及び「仙台市の医療提供体制に関する懇話会」設置を公表	
〃 11 月 24 日	【県】地域医療の課題解決の方向性に関する仙台医療圏市町村長会議	○「政策医療の課題解決に向けた県立病院等の今後の方向性」に関し、県が各種会議で行った説明の状況や、10 月 13 日仙台医療圏市町村説明会後に提出された各市町村からの意見について共有 ○11 月 15 日に県に提出した「本市の考え方」を改めて示すとともに、今回の再編の方向性が、本市を含む仙台医療圏全体の将来にとって望ましいものであるのか、圏域の住民の医療サービス水準の維持・向上につながるものであるのか、データの分析を丁寧に行い、しっかりとした検討、評価がなされる必要があること、県民、市民の納得の下で進められることが最も重要と考えている旨、説明

